

酒生地区の誇り

いにしえロマンの里・・・酒生 さこう



奈良に東大寺が建つ少し前、郡司だった生江氏いくえが、ここ“塔垣地とがいちあざ(字)”に氏寺を建て福井を広く治めていた。私たち「遺跡祭り」の灯行列は、写真の大礎石がスタート地点。五重ノ塔に想いを馳せれば、明日香人とも交わった先人達の暮らしぶりが見えてくる。

鎌倉時代の建暦二年(1212年) 神奈川県かんとうけんの鶴岡八幡宮。正月恒例の“弓場始め”で源実朝より日本一！と褒められた小國頼継こくによりつぐ。強い麻を産する越前稲津の地頭職に任命され、上屋敷(字)に館を構えた事から旧村役場・小学校の紋章は“弓形づくし”である。



金沢市小立野と福井市足羽山あたまごさか愛宕坂に、酒生ゆかりの古刹の話が残る。前者は、天正12年(1584年)加賀百万石をのちに築いた前田利家公、後者はその一年後北ノ庄に入った東郷城主によって、村に残った観音堂が愛宕坂に分寺され移された。波着寺は、養老年中に泰澄大師によって開かれ、平安時代に成願寺山の中腹にたった観音霊場である。酒生の生江氏の篠尾廃寺が大風で倒れ、約半世紀を経て吾が平野を見下す所に建てられた事になる。道元禅師入越ゆかりの寺でもあり、写真は山の全景、そして波着観音は村の大山咋神社に合祀され、今も地区の安寧を見守っている。



酒生の歴史講座生 (酒生地区の語り部)

櫻川 幸夫さん

語り部の櫻川さんは、「31歳の時、永平寺へ初詣出に出て、ふと手に取った一冊に『・・桜谷(福井市成願寺町)に道元禅師、立ち寄る』の一文。竹ヤブの石鳥居に「波着寺」と彫られた額束を見た時の感動は今も忘れられません」と話す。

酒生公民館

住 所／福井市荒木新保町37-9-5
電 話／0776-41-2503
交通機関／京福バス「酒生公民館」
バス停から徒歩1分